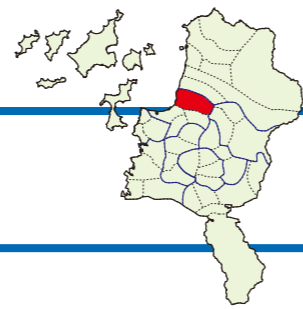


ほりえ 堀江地区

面積：12.91 km²
人口：11,391人（高齢化率 29.6%）
世帯数：5,274 世帯

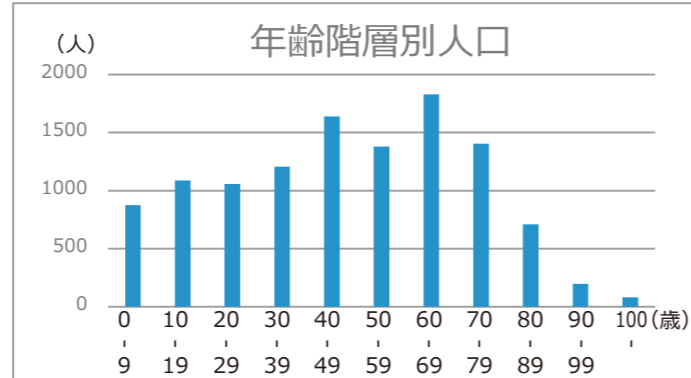


【地区の特色】

堀江地区は、「おだやかな堀江湾に明美な瀬戸の風景、神霊と史跡の宿る山並や心もなごむ出で湯、ほのぼのとした人情とあつい血潮の流れる人里」である。北谷古墳からもうかがえるように、古代から村落的な社会共同体が形成され、生活が営まれていた。そして、海路の要所として海からの文化がいき、人々の心に刻まれていった。現在は、地域の自然や歴史、文化などを生かした個性のあるふるさとづくりが活発に行われている。



まつやま・ほりえ海の駅「うみてらす」



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	地区の弱み	地域が抱える福祉課題
<ul style="list-style-type: none"> 地区コミュニティ会議の充実 公民館と小学校の学社融合がしっかりしている（かかし作り、しめなわ作り、国道の清掃活動） ・サロン活動が充実している 愛媛マラソン時の事前清掃活動、小学生の希望者がカレー作りで応援 高齢者クラブの活動が熱心（男性料理教室） 医療機関の充実 ・スポーツの街 ・海、山があり、空気がきれい 自主防災活動の充実 ・中学校への地域の対応 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の中には各行事の実施にあたり横の連携が不足しているところもある 各団体の役員のなり手がいない、新しい加入者も少ない（高齢クラブでは会長のなり手がいないため休会となるケースが出ている） 交通の便が悪く生活に不便な地域がある 坂が多い 海が近いため、災害に不安（海拔0メートルの所がある） 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会がない集合住宅地ができた（約 150 世帯） 災害援助活動について、自主防災組織、地区民協、消防との連携が必要 各団体の役員のなり手が少ない ・消防団員の確保が難しい ・空き家が増えてきた 独居高齢者の増加、若い夫婦・子どもの減少 新しい住人を地区の行事に迎え入れる方法を検討する必要がある 大きな障がい者施設の現状が把握できない 元気な高齢者が活躍できる場が必要 海の近くに福祉施設があり災害時心配 ・昔の川の氾濫を忘れて防災の意識が低い

堀江地区社会福祉協議会

構成団体	地区民協・公民館・高齢クラブ連合会・議会・中学校・小学校・PTA 郵便局・農協・消防分団・支所・交通安全協会・母子福祉会・教育会・遺族会 区長会・駐在所
主な取り組み	活動内容
独居高齢者 権現温泉招待	一人暮らしの高齢者を権現温泉へ招待し親睦を図っています。
学校における 福祉学習の支援	地区内の小・中学校と連携し、地域の美化、海岸の清掃活動、共同募金の街頭募金への様々な社会体験を提供できるよう支援しています。
地区社協会費制度	堀江地区社協は地区社協会費制度を導入しており、貴重な福祉事業の財源となっています。町内会と連携することで福祉活動への理解の拡大に努めています。

手作り作品展

まちづくり協議会や公民館と連携し、サロンや介護施設・障がい者施設で作られた製作物の展示会を行っています。
地域の民生委員・児童委員さんによるお茶のおせたいもあり、展示作品を見ながらの交流の場になっています。



<地区社協が目指すもの>

地区の高齢クラブとの交流、グラウンドゴルフや小・中学校との交流、美化活動、道路のゴミ集め、公民館やコミュニティ会議との連携活動、歩こう会、遺跡めぐり、うみてらすの活動のほか、自主防災会との訓練等に積極的に参加協力し、地区内の各団体や機関との連携強化を図るとともに、福祉活動を通じて住み慣れた地域で堀江地区の住民の皆さんが安心して生活できるようなまちづくりを目指します。

地区の状況	地区民協 民生委員 主任児童委員	17名 2名	町内会・自治会・区長会等	20 団体
	■まち協の設立	平成 18 年度	■高齢クラブ	7 クラブ
		■子ども会	4 団体	
		■自主防災組織	24 組織	

長い伝統と豊かな自然を有した本地区は、各構成団体と地区社協が連携し、地域に根ざした様々な活動を行ってきた経緯があり、その中で、本地区固有の「地域力」を高めてきました。一方、時代の流れと共に地域を構成する世帯の変動もあり、今後はこれまで培った「地域力」を基盤に、地区内の関係団体と連携し、複数の世代間の理解促進と、各世代の生活スタイルを考慮した地域活動を担える組織づくりが期待されるでしょう。また、高齢者・障がい者等の福祉施設も多い地区でもあることから、災害時においても全ての世代を守るための新たな組織づくりや既存の社会資源の活用についても期待します。



地域カルテ ～地区ごとにみる地域特性～

『地域カルテ』とは

日常生活における不安や悩み、生活課題が複雑化する中、私たちが安心して暮らせるまちづくりに取り組むためには、まずは自分たちが生活する地域を知ることが必要です。自分たちの地域がどのような状況にあるのか、いわゆる地域の健康状態の記録(カルテ)を作成することで、その時々自分たちの地域の強みや弱みを把握するとともに、地域の魅力や課題を共有することにより、住民の地域福祉活動への参加意識の醸成と今後の活動の活性化につなげることが可能となります。今後は小地域ごとに様々な視点から、より詳細な地域分析を行い、それらをもとに地域の特性に応じたまちづくりに取り組んでいくものです。

第1	五明地区
	伊台地区
	湯山地区

第6	宮前地区
	三津浜地区
	高浜地区
	興居島地区
中島地区	

第8	浅海地区
	立岩地区
	難波地区
	正岡地区
	北条地区
	河野地区
	粟井地区

第2	久米地区
	浮穴地区
	小野地区
	石井東地区
	石井西地区
久谷地区	

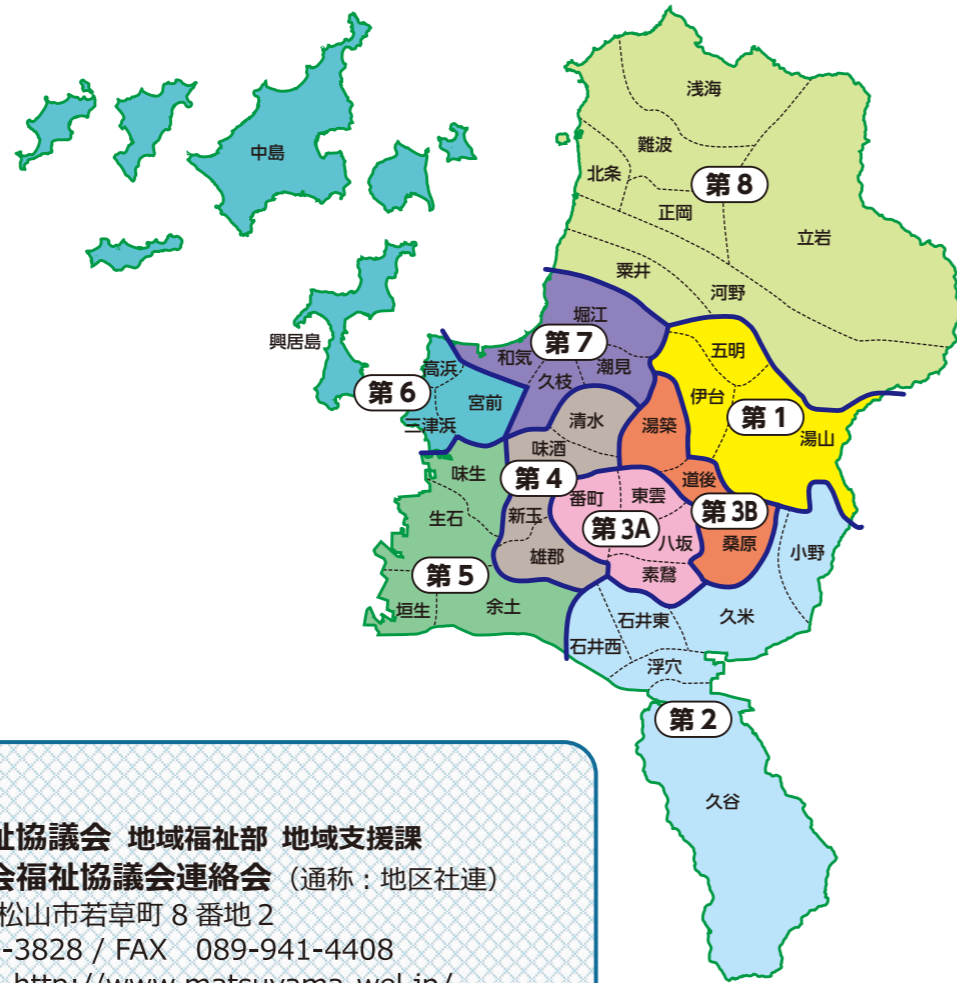
第7	潮見地区
	久枝地区
	和気地区
	堀江地区

第3A	番町地区
	八坂地区
	東雲地区
	素鷲地区

第3B	道後地区
	湯築地区
	桑原地区

第4	雄郡地区
	新玉地区
	清水地区
	味酒地区

第5	余土地地区
	垣生地地区
	生石地区
	味生地地区



発行日 平成31年3月

発行 松山市社会福祉協議会 地域福祉部 地域支援課
松山市地区社会福祉協議会連絡会 (通称: 地区社連)
〒790-0808 松山市若草町8番地2
TEL 089-941-3828 / FAX 089-941-4408
Web アドレス <http://www.matsuyama-wel.jp/>

作成 地区社会福祉協議会 / 松山市社会福祉協議会

<『地域カルテ』の見方>

掲載情報は随時、追加・更新し、各地区の地域福祉推進に活用していきます!

①地区の概要

- ・面積、人口、世帯数、高齢化率は松山市地区別推計人口、また、年齢階層別人口は松山市地区別年齢別住民基本台帳登録の平成30年4月1日現在のデータを記載しています。
- ・地区の特徴は松山市公民館連絡協議会ホームページを参考にしています。

②地域住民からみた地域の状況

- ・研修会のワークショップや会議の意見として、地区社協関係者や民生委員・児童委員をはじめとする地域住民の方々から出された内容をまとめて記載しています。

③地区社協の概要と取り組み

- ・平成30年度現在の各地区社協の活動状況及び地区社協が目指すものを記載しています。

④地区内関係団体データ

■地区民協	平成30年4月1日現在の定数
■まち協の設立	平成30年11月1日現在の設置状況
■町内会等	平成30年度町内会等状況調査(基準日:平成30年6月1日)
■高齢クラブ	松山市高齢クラブ連合会登録数(平成30年4月1日現在)
■子ども会	平成30年度松山市子ども会連合会加入数
■自主防災組織	自主防災組織 地区別結成状況(平成30年4月1日現在)

⑤地域福祉推進のポイント

- ・聖カタリナ大学 教授 恒吉和徳氏をはじめとする学識経験者の皆様から地域福祉推進に向けたコメントをいただいております。

《ご協力いただいた聖カタリナ大学の先生方》

教授 田中顕悟氏、准教授 村岡則子氏、准教授 釜野鉄平氏、助教 近藤益代氏